公益社団法人 静岡県山林協会

森と人

2014年
357
9月15日

県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!

鈴木康友会長

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧下さい。URL：http://www.moritohito.jp

2 本部情報
第33回定時総会開催

3 支部だより①
裾野市の林業施策と県施工による森林基幹道「裾野愛鷹線」開設について

4 支部だより②
『夏休みの冒険!　自然とふれあい　森の魅力を体験しよう!』

5 支部だより③
満員御礼!天竜の木こりと観る『WOOD JOB!～神去なあなあ日常～』

6 森林・林業研究センターだより(No.79)
皆伐後、天然更新は成功するか？

7 農林大学校だより③
林業分校紹介

8 本部情報

8 事務局だより

本部情報

第33回定時総会開催

藤枝市長　森町町長　浜松市長　伊豆市長

8月27日、会員をはじめ、県議会議員や国・県の行政機関等の来賓のご出席を賜り、第33回定時総会が開催され、平成25年度事業報告及び決算など、総ての議案が原案通り可決されました。会長及び来賓のあいさつ要旨を御紹介します。

会長挨拶

浜松市長
鈴木 康友 氏

本日は御来賓の皆様方、そして会員の皆様方には大変ご多用の中を第33回の定時総会に御出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日は平成25年度の事業報告及び決算などについて御審議をいただくことになっております。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

当協会は、静岡県における県土の保全と山村の振興を図ることを目的とし、二つの役割を担っています。ひとつは森林や林業等の役割について、広く県民に普及啓発を図ること。そのため毎年「しずおか森林写真コンクール」を開催してまいりました。昨年度は30回と節目の年に当たり「しずおか写真コンクール写真集」を発刊いたしました。そこに掲載されている写真は様々な形で活用できるものであり、このことにより、森林・林業の普及啓発に繋がることを期待しています。

ふたつ目は、森林土木や林業等の技術者を研修会を通じ育成しています。このような事業を通じて、協会の目的を今後も達成してまいりたいと思いますので、関係者の皆様、会員の皆様には引き続きの御理解・御尽力を賜りますことを切にお願い申し上げます。

来賓祝辞

静岡県交通基盤部理事
林 信次 氏

本県では、一昨年から森林・林業の再生に向け、木材生産の低コスト化、加工・流通体制の整備、民間・公共両部門での木材の需要拡大など、県産材の需要と供給を一体的に創造する「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」に重点的に取り組んできました。

その成果として、低コスト生産システムの広がりや、新たな流通体制が整いつつあるとともに、株式会社ノダの合板工場の新設や既存の製材工場の規模拡大が進み、平成26年度末までに約50万立方メートルの丸太の受入体制が整う見込みとなりました。

また、森の力再生事業は、今年度で９年目を迎えており、事業は順調に進み、森の力が回復するとともに雇用拡大などの波及効果も生まれています。しかし、シカの食害による新たな荒廃森林や、近年頻発する集中豪雨などに対する森林整備の要請が高まっており、森の力再生事業の新たな展開や治山事業の積極的な実施など、災害に強い森づくりを進めてまいります。

県議会副議長
伊藤 育子 氏

貴協会には日頃から、県土の保全と山村の振興を図るため、多大な御尽力をいただいておりますことに、深い敬意を表し、心より感謝を申し上げます。

さて、今年、全国公開された林業をテーマとした映画「Wood JOB！(ウッジョブ)」は、好調な興行成績を収めたとのことでございます。林業への関心が薄かった人たちの興味を引き寄せたのみならず、林業の現場やロケ地も大いに盛り上がったそうです。

林業従事者の高齢化や担い手不足はもとより、森林の再生と育成が大きな社会問題となっている中、厳しいだけではない、林業のすばらしさにスポットが当てられたことは、国民の意識変革の絶好のチャンスです。

映画でも「今ある木は何世代も前の人たちが残してくれたものなんだ」と林業研修生を諭す場面がございましたが、森の生命を育むのには長い年月が必要です。これを一時の流行に終わらせず、世代をつないで森を守る体制を整えていかなければなりません。

私ども県議会といたしましても、皆様の活動に対しまして、引き続き、積極的に支援してまいりますので、皆様にも一層の御尽力をお願い申し上げます。

支部だより①

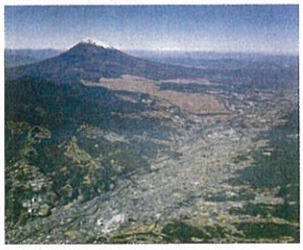
裾野市の林業施策と県施工による森林基幹道「裾野愛鷹線」開設について

裾野市農林振興課

富士山の世界文化遺産登録を機に、景観及び環境の保全・美化の必要性が一層高まってきました。それらのバランスに配慮した森林・林業施策を行っている裾野市から間伐、木材の有効利用及び林道の整備について紹介していただきました。

裾野市の森林の概況

本市は静岡県の東部に位置し、沼津市と御殿場市のほぼ中間に位置しています。市の面積は138.39㎢で、東西23.5㎞、南北23㎞に及び、市域は東が箱根山外輪山の分水嶺で神奈川県箱根町と接し、西は愛鷹山の越前岳、呼子岳、位牌岳で富士市と、大野原で御殿場市と、南は愛鷹山及び箱根山のすそので三島市、長泉町と接しており、豊かな自然に囲まれています。昭和27年に実施された全国植樹祭を契機に造林事業が行われ、箱根外輪山はヒノキ、愛鷹山系はスギの産地として、全国でも有数の森林地帯を形成しています。裾野市の森林面積は8,425haで市域の60.8％を占めています。



裾野市の主な林業関係施策

1．間伐事業

①市単間伐事業

裾野市域の森林面積の内、約70％は手入れの必要なスギやヒノキの人工林で占められています。そのため、森林組合の育成と、貴重な財産を守り、より価値のあるものにすること、災害に強く地下水を函養する森林を育てることを目的として、間伐事業を推進しています。県による補助事業の活用はもちろん、市単独事業として市民所有の山林は負担金なし（市外の方の所有林は１/4負担）での間伐を、裾野市森林組合への補助事業により実施しています。

②裾野市森林経営計画

利用間伐を推進するため、東部農林事務所・裾野市森林組合と協議の上、平成24年度に箱根山系の久根・公文名地区で森林経営計画を認定（施業者：裾野市森林組合）し、65.14haの施業面積において国・県の補助金を有効に活用するとともに、森林経営の転換を図ることができました。

また、これを契機として、森林基幹道裾野愛鷹線開設に伴う愛鷹山系での森林経計画の立案が既に始まっております。

2．木材の有効利用

①土砂流出防止柵の設置

治山対策として、間伐材の活用による長さ4m×高さ0.5mの土砂流出防止柵を毎年設置しています。平成25年度は394基を設置し、林地保全と木材の有効利用を促進しました。

②方針の策定

平成25年度より「裾野市公共建築物等の木材の利用の促進に関する方針」を定め、木材有効利用を促進しています。

3．林道の整備

●森林基幹道「裾野愛鷹線」

裾野市北部～西部に広がる愛鷹山麓には、50年生を超えたスギ・ヒノキの人工林が多くあり、伐採適齢期を迎えていますが、木材価格が低迷し林業経営が困難な状況の中、山林の維持管理が滞り、土砂災害防止、水源涵養等の機能が失われつつあり、近年頻繁に発生している大雨による災害も懸念されております。

このことから、連絡していない既設林道５路線を繋ぎ幹線となる森林基幹道「裾野愛鷹線」を整備する事業が、静岡県により平成26年度から始まりました。

この森林基幹道の整備により、愛鷹山麓の人工林のほとんどが整備可能となり、効率的な森林整備計画を立てることが可能になります。

また、富士木材センターに通じている国道469号線と直接アクセスできることで、木材運搬が容易になり、地域林業の活性化にも寄与することが期待されています。

併せて、受益面積は約1,900haとなるため、190haの森林整備を目標に森林所有者への働きかけを行っています。

▲実際の林道の線形とは異なります。

4．最後に

富士山の世界文化遺産登録を機に、富士山周辺の景観及び環境の保全・美化の必要性が一層高まっています。文字通り富士山の裾野に広がるわが裾野市は、「森林も富士山の景観を形成する重要な要素のひとつである」との認識のもと、今後とも森林開発と森林景観及び環境保全・美化の適正なバランスに配慮した施策を展開してまいりたいと考えています。

支部だより②

『夏休みの冒険！自然とふれあい森の魅力を体験しよう！』

藤枝市　農林課　森林整備係

夏休みを利用し、子どもたちに森林に触れることにより、自然を大切にする心を育くむため、森林体験会を開催しましたので、その紹介をしていただきました。

藤枝市では毎年、夏休みを利用し、環境教育の一環として、子どもたちに森林と触れ合い自然を大切にする心を育てることを目的に、森林体験事業を開催しています。

今年度は、藤枝市制施行60周年の記念事業と併せ、下記に紹介する２事業が開催されました。

【瀬戸谷チャレンジキャンプ】

（藤枝市制施行60周年記念事業）

７月25日㈮～27日㈰に、市内外の小学４年～中学１年生59名が参加して、藤枝市瀬戸谷地区の大久保キャンプ場を中心に瀬戸谷チャレンジキャンプが開催されました。

▲伐採

初日は、テント設営、カレー作りそしてキャンプファイヤー等の集団生活体験を行いました。

翌26日には“林業体験”として、間伐作業を体験しました。キャンプ場近くの山林で、子どもたちは８班に分かれ、指導員から、森を守るための間伐の大切さや、ノコギリの使い方の説明を受け、班の中で交代しながら直径７～９㎝程のヒノキを伐採し、枝を落とし、幹を短く切り揃え、ちょうど軽トラック１台分の木材を積み込みました。

小学５年の男子児童は「ノコギリを使って腕が疲れたけど、木が倒れた時には嬉しかったです。」と、額に汗を流し力強く話してくれました。

また、小学６年の女子児童は「山で木を切ったのは初めて。貴重な体験が出来て楽しかったです。」と充実感溢れた笑顔を見せてくれました。

親元を離れ、大自然の中で仲間と一緒の集団生活や林業体験に真剣に取り組む子どもたちの明るい笑い声が、藤枝の山々に響き渡っていました。

【夏休み親子森林体験ツアー】

８月２日㈯、藤枝市瀬戸谷地区の『市民の森』で開催され、小学１～６年の児童11名を含む８組19名の親子が、夏の陽射しを浴びながら、森林探検・木工工作等の体験ツアーに参加しました。

▲ロープを使って急斜面を登る

午前中の森林探検では、ロープを使って急斜面の山登りを体験したり、森林インストラクターからの、森に住む生物や樹木の名前・特徴等の説明に熱心に耳を傾けていました。

間伐体験では、それぞれがノコギリを片手に、森林ボランティアの指導の下、伐採作業を行いました。「木を切るのは楽しい！もっと切りたい。」と言いながら、颯爽と次の木を探しに行く小学１年の娘の背中を、心配しながらも、どこか嬉しそうな表情で追いかけ、カメラを構えるお母さんの姿が印象的でした。

午後は、地元産の木材を使って、鳥の巣箱やレターケースなどの木工工作を行い、ノコギリや紙やすり、カナヅチの扱いに苦労しながら組み立て、木の葉やビーズで飾り付けするなど、親子で協力して自分好みの作品作りに熱中していました。

参加した保護者からも「木の名前や特徴など、初めて聞くこと、目にするものが多く、新鮮で勉強になりました。」「普段の日常とは違った自然の中で、親子一緒に楽しむことが出来ました。また参加したいです。」という声をいただきました。

▲集合写真

藤枝市は今年、市制施行60周年を迎え、『こども☆みらい☆輝くまち』というテーマで様々な企画が開催されています。

今後も『森林との共生』に向けた取組を通じて、美しく恵み豊かな森林の魅力を、次世代を担う子どもたちに引き継いでいきたいと考えています。

支部だより③

満員御礼!天竜の木こりと観る『WOOD JOB! ～神去なあなあ日常～』

TENKOMORI ～天竜これからの森を考える会～

話題の林業映画『WOOD JOB! ～神去なあなあ日常～』の上映会が、矢口史靖監督挨拶＆木こりのトークセッションで開催されました。その顛末について紹介していただきました。

皆さま、映画『WOOD JOB! ～神去なあなあ日常～』はご覧になりましたか？お爺様が林業家だという三浦しをんさんが描いた、都会育ちの若者が携帯電話もつながらない山奥で1年間林業の修行をするという青春ストーリーを、『ウォーターボーイズ』の矢口史靖（しのぶ）監督が映画化した作品です。その上映会が６月20日にTOHOシネマズサンストリート浜北にて開催されました。なんと、矢口監督の舞台挨拶つきです！

きっかけは、TENKOMORI有志メンバーでこの映画を見に行ったことです。

「とにかく林業のアピールをしよう！」とヘルメットにチャップス、おもちゃのチェーンソーを持って臨んだところ、映画館の副支配人さんに声を掛けていただき、後日「250人の観客を集めれば矢口監督の舞台挨拶付き上映会ができそうだが、やってみないか？」という提案をいただきました！ただし、開催は日付未定の平日夕方、返事は５日後、「監督が来る」という告知は不可という条件が…。不安はありましたが、メンバーの熱意、先輩方のアドバイス、浜松市役所の方々の協力により、開催が決定！さらに、天竜木材産地協同組合様、天竜国産材事業協同組合様に協賛をいただいて、高校生以下100人を無料で招待できることになり、400人を超える申込みをいただいて当日を迎えました。

舞台挨拶は、主人公と同じ現場修行１年目のメンバーも登壇し、ゆるくて楽しいトークセッションになりました。

監督が「自分は林業を好きでも嫌いでもない。その立場だから映画を作ることができた。」と言っていたとおり、良い面だけが描かれているわけではありませんが、林業従事者にしか見られない爽やかで美しい景色、大木が倒れる迫力、子や孫の世代のことを考える林業的思考など、口ではうまく説明できないことが実に魅力的に描かれていました。そんな作品を満員のお客様と一緒に観ることができて感慨深かったです。

ロビーでは、㈱山福さんの全面協力により、山道具の展示をしました。映画に出演した伊藤英明さんが使用したチェーンソーがあり、記念撮影の列ができました。

そのほかにも天竜の杉、桧の床材を用意したり、静岡県や浜松市のパネル展示を行ったりと、天竜の林業をPRする機会になったと思います。

今回の上映会は、TENKOMORIだけでなく関係各所やメンバーの友人を巻き込み、天竜林業のお祭りのようでした。応援、ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました！

森林・林業研究センターだより No.79

皆伐後、天然更新は成功するか？

森林育成科　加藤　徹

皆伐した後、造林しないで天然更新を目指した森林について、その後の経過について紹介していただきました。

スギやヒノキの人工林では、皆伐後も苗を植え、永続的に森林を維持していくのが基本です。しかし、近年材価の低迷などの影響から、皆伐をしても再造林せず、天然更新に任せるケースが増えています。

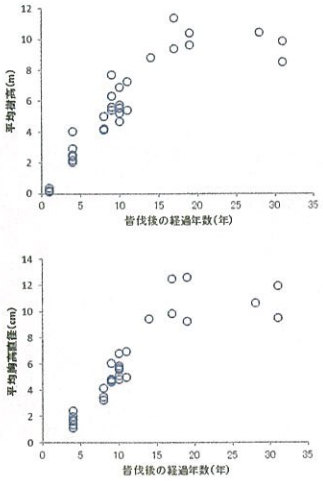
一度にまとまった面積が裸地と化す皆伐では、造林しないとその後の土壌浸食などが憂慮され、周囲に広葉樹林がないような場所では長期にわたる草地化そして山地崩壊なども危惧されます。一方で、県内では草地が広がっている場所はほとんどなく、森林化を阻止しそれを維持するのに苦労している場所が多いのも事実です。皆伐をして再造林しない場合、その場所はどのような植生になっていくのでしょうか？

▲皆伐後に一部だけヒノキを植栽し(右)
残りは天根更新にまかせた林(左)

天然更新後の林分

71箇所の皆伐後再造林していない場所で、その後の植生を調査しました。ただし、そのような事例の少ない東部や富士地域では調査をしていません。調査地の皆伐後の経過年数は主に5～20年程度ですが、長いものでは30年以上経過した林分も含まれています。

調査の結果、ほとんどの場所で高木性の広葉樹が侵入し順調に成長していました。周囲に広葉樹林が見あたらないような場所でも、しっかりと広葉樹林化が進んでいました。県の中部地域で調べたところ、主林木は皆伐後17年程度で胸高直径が11cm、樹高が10mに達し、十分成林したと言えるようになることが分かりました。



▲天然更新させた林の皆伐後の経過年数と
主林木の樹高(上)と胸高直径(下)

天然更新する樹木はどこから

更新した樹種を調べてみると、初期は埋土種子起源の先駆種（パイオニアプランツ）が圧倒的に多かったです。先駆種は、陽樹で初期成長が早い特徴があります。埋土種子は、鳥などが好んで食べる実のものが多く、それらは広い地域に糞として散布され、また長い休眠が可能です。そのため、県内のほとんどの森林には豊富な埋土種子が存在しています。

皆伐すると、日光の照射と地温の上昇により、土中で休眠していた埋土種子が一斉に発芽し、急速に成長していきます。造林地では必ず下刈りや除伐をしますが、主にこれらを除去するために行うものです。

埋土種子以外にも、周囲に広葉樹があればそこから種子が飛散し供給されます。しかし、その影響はせいぜい数10m程度であることが分かり、埋土種子の重要性が改めて分かりました。

更新しないケースも

県内では、天然更新が可能な場所がほとんどです。しかし、中にはうまくいかない場所もあります。たとえば、シカの密度が高い場所です。特に伊豆の伊豆市や河津町などでは天然更新に失敗し、土壌の浸食や小規模な崩壊が見られる場所もあります。また、富士山麓や箱根山麓などのようにかつて長い期間を広大な草地として維持されてきた場所では、埋土種子が少ないことも考えられます。このような地域では、安易な天然更新は避けるべきでしょう。

また、先駆種は寿命の短いものが多く、中部地域で調べてみたところ、皆伐後17年程度で先駆種からそれ以外の樹種に置き換わっていくことが分かりました。しかし、先駆種で構成された林の下に、それ以外の樹種の樹木が少なく、今後もっと安定した森林に遷移していくのか不明な林分があることも分かりました。

今後、当センターでは、その場所が天然更新を確実に達成できるかどうか、皆伐する前に知ることができる技術を開発していく予定です。

▲更新に失敗した場所

農林大学校だより

林業分校紹介

静岡県立農林大学校林業分校　山本　茂弘

県立農林大学校林業分校（浜松市浜北区於呂）からは、教育概要及びこれまでの卒業生の就職状況について紹介していただきました。

林業学科の紹介

県立農林大学校は、幅広い専門知識・技術の習得と経営能力を高める実践的教育を行い、優れた農林業後継者及び指導者の養成と資質向上を図ることを目的としています。

当大学校の教育課程は、養成部・研究部・研修部の３部で構成されます。林業学科は、養成部の５つの学科の一つで、定員は10名、修行年限は２年です。１年生は、本校（磐田市富丘）で一般的な教養科目、各学科共通の専門科目、林業の基礎的な専門科目を１年間学びます。２年生は、学科別に各分校等に分かれ、専門的共通科目（先進経営研修、卒業論文など）のほか、より専門的、実践的な専門科目を学びます。

林業学科の２年生は、森林･林業研究センターや行政機関、各種林業団体、民間の先進的企業等に講師をお願いし、林業各分野の最先端技術や経営方法を習得しています（写真１、２）。

▲写真１　機械集材装置の点検・整備実習
林業架線集材作業に関する知識と基礎技術を習得する

▲写真２　先進経営研修での実践作業
２ヶ月間にわたり、林業の先進的経営体の優れた実践的技術や経営管理方法等を習得する

卒業生の進路

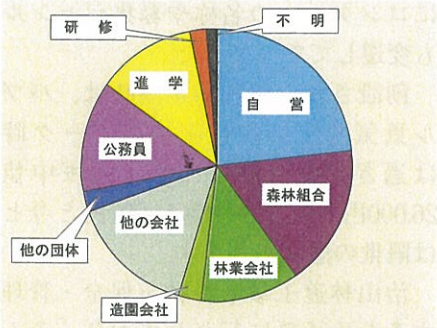
林業学科の卒業生は、昭和45年度に創設された前身の県立林業講習所から数えて、平成25年度の卒業生まで、合計489名に上ります。

昭和45年度から平成25年度までの卒業生の進路状況を図１に示します。最も多いのは、自営で全体の23％になります。自営の82％は林業または農林業を営んでいます。次いで、森林組合への就職が17％、林業関連会社（素材生産・林業機械・製材業）が11％ですので、林業分野に就業した学生は、ほぼ半数となります。公務員も比較的多く、全体の13％となっています。

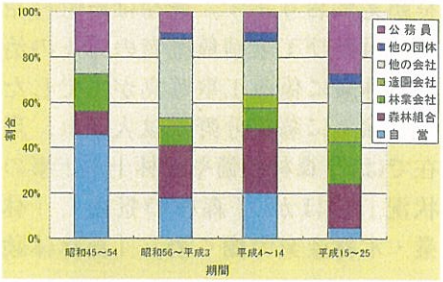
次に、これまでの就業先の傾向をみるため、約10年間ごとに区分した各期間の就業先割合の変化を図２に示します。

特に自営の変化が大きく、昭和45～54年度の期間では46％を占めましたが、平成15～25年度の期間では５％に激減しました。これは木材価格の低迷などが経営を圧迫したのかもしれません。森林組合への就職は、昭和56年度以降の各期間は、20～28％で大きな変化は見られません。また、林業関連会社は、平成15年度以降は18％に増加しました。これは、「緑の雇用担い手育成対策事業」の雇用促進効果等と思われます。また、公務員も、平成15年度以降は27％に増加しています。雇用の安定志向の表れと思われます。

現在、木材生産量年間50万㎥を目標として、高性能林業機械等を用いた効率的な木材生産が行なわれておりますので、今後も、林業生産現場で求められる、時代にマッチした人材育成に努めていきます。



▲図１　卒業生の進路（昭和45年度から平成25年度）
林業会社には素材生産・林業機械・製材業を含む
自営の約8割は農林業



▲図２　各期間ごとの卒業生の就業先（昭和45年度から平成25年度）
林業会社には素材生産・林業機械・製材業を含む
自営の約8割は農林業
平成55年度は１年制から２年制に移行した年のため卒業生はいない

お問合わせ

静岡県立農林大学校林業分校
電話　053-583-3523

本部情報

『しずおか森林写真コンクール』写真集の発行

平成25年度は、写真コンクール創設30回の記念の年となることから、今までのデータを整理し、多くの方に利用できるよう『しずおか森林写真コンクール』写真集を発行致しました。

「写真コンクール」は、昭和59年度に創設され、30回目を迎えました。当初は「治山・林道・林構等写真コンクール」として発足しその後、「治山・林道・山村写真コンクール」、そして現在の「しずおか森林・林業写真等コンクール」と森林・林業・木材産業を取り巻く環境の変化とともにコンクールの名称や募集ジャンルも変遷して参りました。

創設された昭和59年当時は、バブル景気前で、木材価格はピーク時は過ぎておりましたが、スギ中値26,000円、ヒノキ中値41,000円と今とは隔世の感があります。

治山林道工事も森林を保全・管理するため活発に行われており、そんな時に「写真コンクール」が創設されました。

今までの入賞作品は既に600点余を超えております。最初は市町村や県職員及び工事請負業者の方々の治山・林道に係る工事写真が主でしたが、徐々に募集分野が拡大され、現在では、「森林整備や森林土木工事の状況」のほか、「森林の景観」、「林業・木材産業で働く姿」、「森林体験やリクリェーションの様子」及び「森林と一体となった山村や生活の風景」など森林や林業の素晴らしさ、大切さの啓発に役立つものまで対象を広げて参りました。

また、応募者の範囲も会員及び行政関係者から一般県民まで広がり最近では一般の方々からの応募数が大半を占めるようになりました。この副次的効果として写真技術のレベルも大幅に向上したように感じています。

この30年は、フィルムカメラからデジタルカメラへと大きな変革の時期にも重なり、ここ10年位は試し撮りが容易なデジタル写真が主流となっています。

入賞作品は、県民の皆さまに森林や林業の素晴らしさ、そして重要性を啓発するため、協会機関誌“森と人”の表紙などに掲載して参りました。その他、毎年県内各地での展示会や行政資料などにも使われてきました。

協会には今までの入賞作品の約9割が、応募写真及びネガフィルム等のデータとして保管されており、これだけの貴重な財産にもう一度スポットを当て、有意義に活用することが、大変重要ではないかと考えていました。

そこで、今年が、写真コンクール創設30回の記念の年となることから、これらのデータを整理し、多くの方に利用できるよう記念誌『しずおか森林写真コンクール』写真集として編集致しました。

森林・林業と特殊な分野のデータでありますので、行政・広報資料、報道関係等で幅広く活用頂ければ幸いと考えます。

当写真コンクールを30年の永きにわたり続けることができておりますのは、関係する皆さまのご支援、ご協力の賜物であり、とりわけ創設当初から審査委員長をお願いして参りました三井章二様には、この紙面をお借りして深く感謝の意を表します。

事務局だより

静岡県林業者大会 in 袋井

10月26日(日)、小笠山総合運動（エコパ）の森林を活用して、静岡県林業者大会が開催されます。そのメイン行事として林業への新規就業者や森林所有者の後継者らを対象とした現地研修会等を行うこととなりました。対象者の方々の参加を募集しています。

行事の主な内容は、高所作業による枝下ろしや断幹作業を行うリギングデモ、グラップルを使った積込みを競う高性能林業機械選手権、そして、チェーンソーによる丸太の輪切り選手権など、林業のプロの技を紹介するとともに、参加者にも体験していただく内容になっています。その他、イノシシ鍋などお楽しみもありますので多くの方に参加して頂きたく事務局として願っています。

（橋本）

「森と人」編集・発行
公益社団法人
静岡県山林協会
静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489